

歴まちワークショップ ニュースレター

No.6

令和2年12月1日

編集・発行

桐生市 都市整備部

都市計画課 歴まち・街路係

桐生市では、「桐生市歴史的風致維持向上計画」に基づく施策の一環として、「歴史まちづくりワークショップ」を、昨年度に3回開催しました。ワークショップの成果をふまえ、現在の藤棚広場周辺の整備の方向性が固まりましたのでお知らせします。

歴史的資源の保全活用の考え方

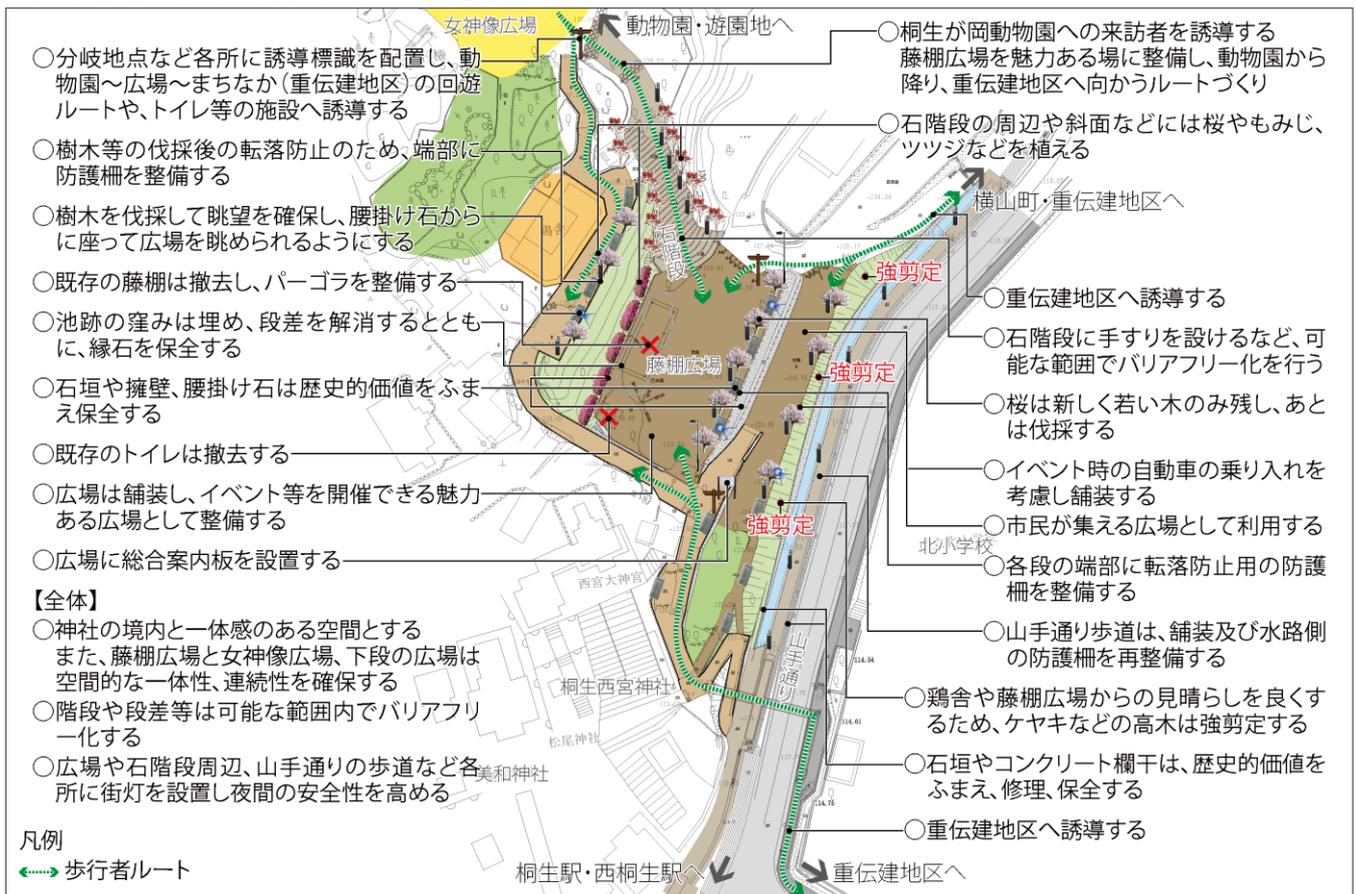
桐生が岡公園は、明治28年(1895)に小島春比古による寄附をきっかけに整備が始まり、その後も桐生の商人達が私財を投じ、段階的に整備が進められてきました。藤棚広場周辺には、一大公園化を目指した先人達の思いが詰まっており、以下の様に様々な歴史的資源が残されています。これらの資源を保全活用し、歴史的価値に配慮した整備を行います。

主な資源と歴史的価値

石垣	明治32年以前に整備されたと思われる石垣(石積み)が現在まで継承されています。
石階段	大正11年(1922)に整備されたと言われる玉石の石階段(31段)が現存しています。
腰掛石	かつては眺望の良い場所に置かれていた腰掛石が残り、側面に寄附者名が刻まれています。
山手通り 歩道	山手通りは柄杓山城へ通ずる道で、古くから道と水路が存在していました。玉石積みの石垣、戦時中の整備と思われるコンクリート欄干により、特徴的な歴史的景観が形成されています。

藤棚広場周辺整備マスタープラン

ワークショップでの意見や歴史的価値をふまえ、将来の方向性を「藤棚広場周辺整備マスタープラン」としてまとめました。



整備イメージ



藤棚広場



対象区域全体



山手通り

※現時点でのイメージ図であり、
変更になる場合があります。